

新曲紹介

花 桃

詞・曲 黒坂黒太郎

おしは もあな いでわも だせも けはの なしみ がぶんち れのき てなある ゆかる くてき かかあ

ぜんな ーじた ーとあき ともお ものく にあゐ わいこ かいの れっー のつた とけに

きたで こあゝ るなの ーたな んめと てきて はわい なすき ー ーなれて かなゆ

でいく こん なはる だ から こ

そ はなる やかか ににおお ぎだお ややか かかか ににに

は なももの はな よ さいて ーにの のの

むむく ー ーらに にに

インターネットのユーチューブで聴くことができます。花桃0001で検索してください。

渡辺杏一さんのこと

渡辺さんに初めて会ったのは今から7年ほど前、コカリナ協会の東京の事務所でした。僕が事務所で行っている中級個人レッスンに、新幹線に乗って遠く石巻からやってこられました。それだけでも驚いたのに、お年はもう80歳に届かれるという。そして、演奏を聴かせていただいて、体全体を揺さぶりながらの熱演に衝撃を覚えました。渡辺さんはそれから何度も東京にレッスンに訪れ、コカリナ資格試験にもどんどん挑戦していきました。そして、今年の秋、最難関である

1級試験に合格、講師を目指していました。2月末東京で行われた「東京コカリナフェスティバル」にも登場され、帰り際満面の笑顔で「またお会いしましょう」と言って帰って行かれました。その渡辺さんがあの地震と大津波で行方不明になってしまいました。渡辺さんがお住まいになっていたのは石巻の門脇地区。石巻の中でも最も被害が深刻だった地域です。5月中旬、仙台のコカリナの仲間達が、渡辺さんのご自宅跡に集まり演奏してくれました。その事が読売新聞全国版で大きく掲載されました。渡辺さんの事を思っているうちにこんな曲が生まれました。

100号にあたり

黒坂正文コンサートニュースの第1号が出たのは1976年ですからちょうど35年前です。それから、だいたい年3回のペースで、各地のコンサートの報告を中心に、色々書き綴ってきました。時には強気に、時には弱気に書き続けて来て、気が付いたらなんと100号を迎えていました。応援してくださった皆さん、ありがとうございました。さあ、これから何号まで行くことができるのか？

東日本大震災被災地支援コンサート

4月に発行した「なんじゃもんじゃ号外」でもお知らせしましたが、東日本大震災の被災地を支援するコンサートを、全国100カ所を目標に展開しています。タイトルは「復活の笛コカリナとうたでつむぐコンサート」。各地の皆さんの被災地への思いを紡いで、支援金も含め大きな輪を作っていこう、というものです。

どの町でも被災地への熱い思いが夏の雲のように沸き立つコンサートが展開されています。

スケジュールは以下の通りです。(この中には「里唄」コンサートなど普通のコンサートで募金箱を置くものも含まれます)これから計画してみたい、と思われる方はご連絡ください。要項をお送りします。

4月22日	三重県紀宝町	9月11日	新潟県佐渡市
4月29日	長野県上田市	9月17日	長野市本郷
4月30日	長野市安茂里	9月23日	新潟県上越市
5月1日	長野県坂城町	9月24日	新潟県糸魚川市
5月8日	長野県阿智村清内路	10月1日	山形県寒河江市
5月14日	長野市吉田	10月8日	東京北区
5月21日	福井市	10月9日	滋賀県近江八幡市
5月25日	長野県白馬村	10月16日	千葉県柏市
5月27日	長野県小諸市	10月23日	長野県中野市
5月28日	長野県東御市	10月27日	茨城県つくば市
5月29日	長野市若穂	10月29日	長岡市
6月3日	長野県安曇野市	10月30日	横浜市
6月17日	福岡県大川市	11月6日	神奈川県海老名市
6月18日	福岡県甘木市	11月12日	千葉県我孫子市
6月19日	熊本県荒尾市	11月19日	茨城県守谷市
6月20日	福岡県宗像市	11月23日	高知市
7月3日	横浜市野毛山	11月26日	長野県佐久市
7月9日	横浜市みなとみらいホール (東京コカリナアンサンブル定演)	11月27日	長野県塩尻市
7月16日	新潟県柏崎	12月4日	京都府美山町芦生
7月17日	長野県須坂市	12月11日	東京紀尾井ホール (矢口周美リサイタル)
7月18日	長野県高森町		
7月30日	埼玉県飯能市		
7月31日	長野県箕輪町		
8月21日	静岡市		
9月3,4日	志賀高原コカリナフェスティバル		
9月10日	新潟市西区		

2012年

1月7日	ウィーン楽友協会
3月4日	松戸市
3月11日	軽井沢大賀ホール
3月20日	長野県御代田町
3月24日	新潟県巻市

「復活の笛「コカリナ」東北支援ブログ」にそれぞれのコンサートを写真入りで紹介しています。是非ご覧ください。http://pub.ne.jp/kocarina96/ (「コカリナの世界へようこそ」のホームページからも入ることができます)



黒坂黒太郎(正文)
コンサートニュース

第100号
2011.7.25

発行
黒坂音楽工房
東京都江東区大島
5-34-17-2F
Tel. 03-5626-1581
Fax. 03-5626-1568

ホームページアドレス
http://www.kocarina.net

被災木をコカリナに

4月上旬、石巻、女川を訪れさせていただきました。変わり果てた石巻、女川の町の姿にただただ呆然とするばかりでした。特に石巻市立門脇小学校の前に立った時は、まるで空襲を受けたかのように焼けただれた校舎を前に言葉も出ませんでした。子ども達はどれほどの恐怖の中、避難したのだろう、と思うと胸が締め付けられる思いでした。そして、校舎の脇を見ると何本もの樹木が無惨にも焼けただれていました。ただ木は表面が焼かれても芽吹くときがあります。校舎はもう使うことはできないだろうけれど、せめて、子ども達の思い出が詰まったこの木はなんとか復活してほしい、と願いながら門脇小学校を後にしました。

先日、「あれからあの木は芽吹いたでしょうか?」と心配になり、石巻でコカリナプロジェクトの受け入れをしてくださっている菊池先生にお尋ねしましたところ、すぐに見に行ってください写真を撮って送ってくださいました。それを見る限り、幹のどこにも新しい芽は見られず木が復活していくことは難しい、と思わざるを得ませんでした。根元に「ひこばえ」が

出ている木があるので、「ひこばえ」は成長できていくでしょう。でもどの木も幹には葉は見られず、この木たちはこのまま雨ざらしにすると、完全に朽ちてしまうと思われまふ。そこでこの門脇小学校の焼けた木でコカリナを作らせていただく事はできないだろうか、と考え、今、校長先生はじめ学校関係者の皆さんに提案させていただいております。コカリナにし、門脇小学校の子ども達に、プレゼントできればと思っています。おそらく何ひとつ思い出の品物を持つこともできず脱出せざるを得なかった子ども達にあの校庭の木がコカリナになって戻ってきたとしたら、どんなに嬉しいかしれません。6年前の中越地震の時も、新潟県山古志小学校の地震で倒れた桜と松の木を全校生徒分80本のコカリナにして、プレゼントしました。子ども達はまるで帰ってきた小鳥を抱きかかえるように、コカリナを手で包み込み嬉しそうに吹いてくれました。その光景を今だに忘れることができません。あれから山古志小学校では全員がコカリナを演奏するようになり各地で披露してくれています。

あのときと同じように何とかして門脇小学校の木達をコカリナとして蘇らせてあげたいと思っています。

そして、この門脇小学校がある門脇地区は、津波で流されたまま未だ行方が分からないコカリナ愛好家渡辺杏一さんのお住まいがあったところです。渡辺さんにとっても思い出がある木とおもわれますので、なんとかコカリナにして手向けたいと思っています。



門脇小学校玄関脇の銀杏、幹は焼けてしまったが「ひこばえ」(芽)が出ている。



まっ黒に焼けた門脇小前の松の大木

無言館(槐多庵)コンサート日程訂正

「なんじゃもんじゃ99号(2月発行)」にて、この夏、上田市の無言館にて「ジョー・オダネル写真展」を開催し、その中で「8月15日に黒坂黒太郎コンサートを行う」とお知らせしましたが、日にちが間違っ

ておりました。コンサートは8月28日(日)19時より「戦争と平和を考えるコカリナコンサート」として無言館の下にある槐多庵にて行われます。是非、ご参加ください。

ウィーン楽友協会被災地支援コンサート、スペインゲルニカ、カザルス生誕地でも

2012年1月7日にウィーン楽友協会にて再びコカリナコンサートが行われます。当初、前回のアンコール公演として行われる予定でしたが、急遽「東日本大震災被災地支援コカリナコンサート」として行われる事になりました。ウィーンでも東日本大震災への関心は高く、ウィーン少年合唱団が支援コンサートを開いてくれたり、様々な形での支援がなされています。ウィーンの後にはスペインに飛び、「鳥の歌」のパブロ・カザルスの博物館で「平和コンサ-

ト」、さらに、ピカソの絵で知られるゲルニカ平和博物館でコンサートを予定しています。パブロ・カザルスが世界の平和を訴えながら、ホワイトハウスでケネディ大統領を前に「鳥の歌」を熱演したのが1961年11月26日。今年はちょうど50周年という記念の年になります。このツアーはコカリナを演奏されない方でも、参加することができます。ご希望の方は早めに資料をご請求ください。

8月上旬に現地にて打ち合わせをする予定です。

本紹介

「ふたたび、ここから」

池上正樹著 (¥1,500 ポプラ社)

東日本大震災から4ヶ月。震災のルポルタージュが続々と出版されています。それぞれに核心に迫る表現がなされ素晴らしい本ですが、この本はコカリナプロジェクトとつながりを持つ石巻・女川を重点的に取材しているものです。表紙の装丁には門脇小学校の焼けただれた校舎の写真が使われ、まず第一章が門脇小学校の避難がいかになされたか?が克明に描かれています。この3月で退職された鈴木洋子校長先生と子ども達の連携、そして奇跡的に焼失を免れた卒業証書。1ヶ月遅れで行われた卒業式。その時行われた、子ども達から校長先生への卒業証書授与のサプライズ。震災の悲惨さと共にそれを乗り越えていく人々の心模様が綴られた素晴らしい本。

「STAND」

大藪順子著 (¥1,500 いのちのことば社)

先日、福岡県の宗像市で被災地支援コンサートをしていただきました。午前中、幼稚園でも、園児と保護者の方々を対象に演奏して欲しい、と依頼を受け出かけていきました。コンサート終了後、控え室で園長先生や園長先生の娘さんとお話をする事ができました。娘さんは今、フォトジャーナリストとしてアメリカワシントンで活躍されているとのことでした。そして、ご自分で書かれた「STAND」という一冊の本をプレゼントしてくださいました。本の帯に「レイプ被害から立ち上がり、全米で性暴力被害者の写真プロジェクトを展開した日本人フォトジャーナリスト」と衝撃的な言葉があり驚かされました。帰りの飛行機の中で読み続け、痛く感動しました。単に「レイプ被害」と言うことだけでなく「不幸の持つ意味」を考えさせてくれ、多くの人々に勇気を与えてくれる本です。今回の震災被害にどう立ち向かうか、という事とも重なります。著者の大藪順子さんは今日本でも講演会や写真展を精力的に行っています。これも素晴らしい。

矢口周美15周年リサイタル 12月11日(日) 紀尾井ホール

コカリナと共に歌い続けてきた矢口周美の15周年リサイタルが12月11日(日)東京千代田区の紀尾井ホールで行われます。共演は矢口とは10年来、一緒に演奏してくださっているNHK交響楽団ハープ奏者の早川りさこさん。そしてCD「里唄」の筑波山で素晴らしいバイオリンを奏でてくださった城戸喜代さん。さらに、福沢達郎さん、黒坂黒太郎、里唄コカリナアンサンブルの皆さんです。紀尾井

ホールもサントリーホールと同じように素晴らしい響きを持つ日本で有数のクラシックホールです。ここで矢口の歌声とハープ、バイオリン、コカリナのコラボレーションが展開されます。是非お出かけください。

演奏予定曲は「一本の樹」「ザ・ローズ」「筑波山」「江ノ島遠い日の海」「ショパンの別れの曲」「スペインの子守唄ナナ」など。